

## 欧州諸国の公共調達における設計競技方式の現状と各国ルールの比較分析 -ドイツ及びオーストリアを中心に-

○富山大学 学生会員 上埜 由美子  
富山大学 正会員 王 永成  
富山大学 正会員 久保田 善明

### 1. はじめに

日本では近年、良質な公共空間を創出する方策として設計競技方式の導入が注目されるようになっており、2018年には土木学会から土木構造物や公共空間を対象とした設計競技方式導入のガイドラインが刊行されている<sup>1)</sup>。これにより国内における設計競技の事例も増加しているが、日本における設計競技方式の導入はまだ緒に就いた段階であるため持続可能な制度設計に向けた課題も存在する。

一方で、欧州諸国では長きに渡り設計競技方式が採用されており多くの経験と実績を有している。EUの設計競技方式はEU加盟国の公共調達制度の基本を定めたEU公共調達指令(Directive 2014/24/EU)においてデザインコンテスト(design contest)として記載されており、EU各国はこの指令に即した国内の制度や規則等を定め運用している。日本の制度設計において、長年運用・改善が図られてきた欧州の制度に学ぶことは多いと考えられる。

そこで筆者らは、欧州諸国のうちデザインコンテストを多く実施している国を選定し、それらの国の公告情報の評価基準欄を対象にテキスト分析及び主成分分析を実施し、現状の各国の共通事項や特徴等を把握した<sup>2)</sup>。本稿では、選定した国のうちドイツ及びオーストリアを対象に関連制度と事例の調査を行いその特徴を明らかにすることを目的とする。

### 2. ドイツのデザインコンテスト関連制度

ドイツでは競争制限禁止法『GWB』の第4部で公共調達について規定されており、この規定をより詳細に定めた公共契約の授与に関する条例『VgV』にデザインコンテストの規定がある。『VgV』により、都市開発や建設分野に関するコンテストは設計競技ガイドライン『RPW2013』に基づいて実施することや賞金等の金額は建築家とエンジニアの料金表『HOAI』

に従い算出することが規定されている。

### 3. オーストリアのデザインコンテスト関連制度

オーストリアではEU公共調達指令に則した法令として、連邦公共調達法『BvergG2018』を運用しており、同法にデザインコンテストを実施する際の基本的事項も規定している。オーストリアのデザインコンテストはこの法律に加え、法的拘束力のない設計競技規則に基づき実施することが一般的になっている。設計競技規則としては連邦商工会議所が発行した賞金に関する規則も含まれる設計競技ガイドライン『WSA2010』が一般的に用いられている。

### 4. 主成分分析による事例選定

筆者らはテキスト分析で抽出した頻出語句を含む公告情報を対象に主成分分析を実施した<sup>2)</sup>。その結果、第1主成分は「総合的なデザインコンテスト」、第3主成分は「地域性重視のデザインコンテスト」を表す一方で第2・4主成分は設計業務等を課題としないなど特殊なデザインコンテストを表すと解釈できた。本稿では公告情報の第1・3主成分得点を元に調査するコンテスト事例を選定した(図-1)。以下の5章はオーストリア、6章はドイツの事例である。第1主成分得点は両事例とも同程度だが、第3主成分得点は6章の事例において高いものを選定した。

### 5. アム・ゼボーゲンにおける公園設計(2017)

オーストリア、アスペルン、アム・ゼボーゲン地区の都市開発に伴い実施されたコンテストで、主な課題は草原エリアと鉄道駅高架下エリアに渡る公園の設計である。最優秀提案には、高架下空間をデザインの軸として活かし、草原エリアと高架下エリアで異なるアクティビティが楽しめるものが選ばれた(図-2)。審査員は特に鉄道線の高架下空間を積極的に活用し、様々な用途で人々が利用できるという提案の可能性を大きく評価した。

キーワード 公共調達, 設計競技方式, 欧州諸国, 主成分分析

連絡先 〒930-8555 富山県富山市五福 3190 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科

## 6. エルヴァンゲンのランドスケープ設計(2020)

ドイツ、エルヴァンゲンにおいてリージョナル・ガーデンショーの開催に伴い実施されたコンテストで、主な課題は河川空間の再生や地域の異なるエリアを繋ぐ景観公園の設計などである。最優秀提案には、自然の地形を活かしたオープンスペースで様々なアクティビティが楽しめるものが選ばれた(図-3)。審査員は河川空間の活かし方などを評価した一方で、提案の密度がエリアによって差があることを指摘し、できるだけエリア全体に整備効果が発揮されることを求めた。

## 7. おわりに

本稿ではドイツ及びオーストリアの制度と事例を調査した結果を述べた。特に事例調査では主成分分析より得られた主成分がデザインコンテストの事例の実態や個別の課題を比較的よく反映していることが示唆された。

### 参考文献

- 1) 土木学会建設マネジメント委員会:土木設計競技ガイドライン同解説・資料集, 土木学会, 2018.
- 2) 上埜由美子・王永成・久保田善明: 欧州諸国の公共調達における設計競技方式の公告情報のテキスト分析, 土木学会中部支部研究発表会講演概要集, VI-06, 2022.
- 3) Park am Seebogen, Wien, Hager Partner AG, [https://www.hager-ag.ch/en/project/fti707\\_hwu883\\_rmj568/](https://www.hager-ag.ch/en/project/fti707_hwu883_rmj568/)(2022.02.10 閲覧)
- 4) Landesgartenschau Ellwangen Wettbewerb 2020, relais Landschaftsarchitekten Heck Mommsen PartGmbH, <https://relaisla.de/de/projekte/landesgartenschau-ellwangen>(2022.02.10 閲覧)

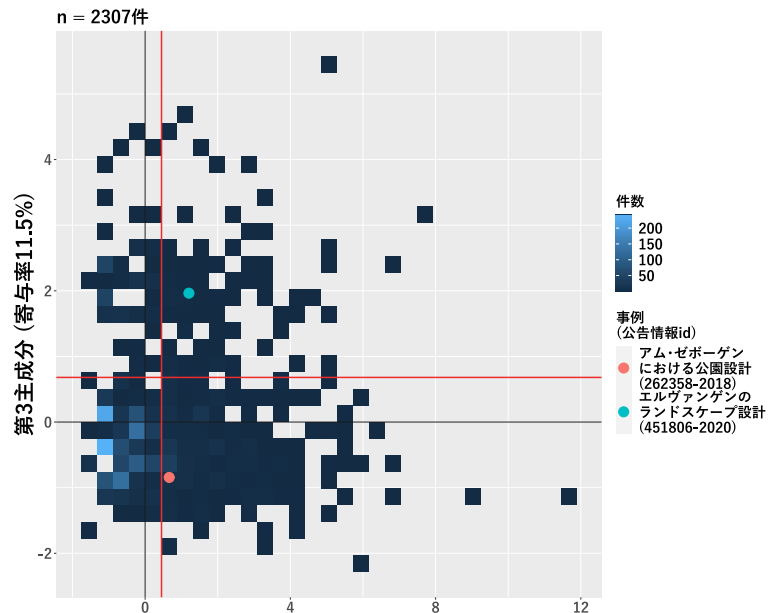


図-1 第1・3主成分によるピンプロットにおける事例の位置  
(赤線は各主成分得点の75パーセンタイル値)



図-2 5項の事例における最優秀提案イメージ  
(資料3より抜粋)



図-3 6項の事例における最優秀提案イメージ  
(資料4より抜粋)